

2012年2月28日(火)

横浜市技能文化会館 2階 多目的ホール(1)

第2回横浜市立病院等安全管理者会議

医療安全中小病院の試み
小さい病院だからこそできた？
スタッフひとりひとりの行動特性
『見える化』プロジェクト

医療法人すこやか 高田中央病院

医療安全委員会 医師 荏原 太

病院紹介（医）すこやか 高田中央病院



医療法人 すこやか

高田中央病院

横浜市港北区高田西

2-6-5



横浜市営地下鉄 グリーンライン
高田駅下車 徒歩3分

病院紹介

プロフィール

開設年	1973年(昭和48年)
理念	信頼と優しさを いつでも どこでも 誰にでも
病床	一般病床 60床
診療科	内科、循環器内科、糖尿病・代謝内科、 消化器外科、外科、脳神経外科、整形 外科、形成外科、肛門外科、麻酔科、 リハビリテーション科
平均在院日数	19日
病床稼働率	89%

医療安全委員会 プロフィール

○構成メンバー

医師3名と各職域

より代表者 計14名

医療安全のシンボル



背景1 個人の行動特性に着目した理由

(1) 医療安全活動の限界

→分析手法などのテクニックを重要視

(2) パーソナルレベルに焦点を当てた 安全活動の必要性

→インシデントを起こすメンバーの固定化

(3) 安全活動の形骸化

→形だけのKYT・マンネリ

背景1 個人の行動特性に着目した理由

(1) 医療安全活動の限界

→分析手法などのテクニックを重要視

(2) パーソナルレベルに焦点を当てた 安全活動の必要性

→インシデントを起こすメンバーの固定化

(3) 安全活動の形骸化

→形だけのKYT・マンネリ

背景2 安全行動調査を選択した理由

○行動特性調査に中央労働災害防止協会(中災防)が作成した安全行動調査を選択した5つの理由

●作成意図が明確

●信頼性

→バリデーションが施行されている

●簡便で明確

→記入時間が適正 選択肢がわかりやすい

●改善度の見える化が可能

→経時的に変化する内容である

●コスト

目的 何のために

医療安全活動の一環として
自身の行動特性を認識し、その結果をふまえ
ひとりひとりオリジナルの年間目標を作成する

方法 3つの手順で取り組む

○STEP1 安全行動調査の施行

○STEP2 安全行動調査結果をふまえ
各自の目標設定

○STEP3 現場で活用する
「現場ごとのフィードバック」

施行前に議論された問題点

● 個人の結果を管理者にどこまで知らせるか？
または、知らせないか？

● 人事考課等に影響するのか？

→ 中災防が最も事業者に留意して欲しい部分

→ 安全衛生活動にのみ活用

○STEP1 安全行動調査の施行

○STEP2 安全行動調査結果をふまえ
各自の目標設定

○STEP3 現場で活用する
「現場ごとのフィードバック」

STEP1 安全行動調査とは？

○安全行動調査とは？

- ・中央労働災害防止協会が開発し、質問票調査方式により行う
- ・78の日常的な場面での質問に対し、「はい」か「いいえ」の二者択一法で回答
- ・その人の「エラー傾向」、「パーソナリティ傾向」を客観的に表示

●分析結果

エラー傾向	聞き違い・見落とし 勘違い 度忘れ 物忘れ
パーソナリティ傾向	疲れやすさ 気の弱さ 根気のなさ いい加減さ 自制心のなさ 軽率さ 協調性のなさ 神経質さ

●コメント

上記結果からの、各人の特性や作業を行う上での注意事項

STEP1 安全行動調査の内容

質問数78問 所要時間10～15分程度
非常勤を含む全職種に施行 118名

【質問】

- | | | | | |
|---|-------------------|---|----|-----|
| 1 | むりをするとすぐばてる | → | はい | いいえ |
| 2 | 人前であがってしまつて失敗する | → | はい | いいえ |
| 3 | こつこつと地道にやるのは苦手だ | → | はい | いいえ |
| 4 | おだてられると、すぐに乗ってしまう | → | はい | いいえ |
| 5 | カツとなりやすいたちだ | → | はい | いいえ |
| 6 | 落ち着いているほうだ | → | はい | いいえ |
| 7 | 誰とでもすぐに打ちとけられる | → | はい | いいえ |
| 8 | 何もやる気にならないことがある | → | はい | いいえ |

○STEP1 安全行動調査の施行

○STEP2 安全行動調査結果をふまえ
各自の目標設定

○STEP3 現場で活用する
「現場ごとのフィードバック」

STEP2 結果 解析内容（個人・グループ）

○調査結果プロフィール（個人ごとに配布される）

エラー傾向、パーソナリティー傾向について5段階評価 さらに、それらの傾向を総合的に踏まえてコメントが記されたものを安全行動調査結果プロフィールとして示します。コメントは、個人の特徴を示し、その内容として各人の特性や作業を行う上で注意すべきこと等が記されています。

○妥当性低位者一覧

調査結果のデータの信頼度が低い方の一覧表

○全体集計表

対象者の結果一覧の全体集計表

○集団集計表

全体集計表の点数分布を集計した表

安全行動調査結果プロフィール（例）

【個別傾向テーブル】

	傾向の強さ	弱 い	やや弱い	普 通	やや強い	強 い
エラーの傾向	聞き違い・見落とし		*			
	勘 違 い		*			
	度 忘 れ		*			
	物 忘 れ				*	
パーソナリティの傾向	疲れやすさ		*			
	気の弱さ	*				
	根気のなさ		*			
	いい加減さ			*		
	自制心のなさ		*			
	軽 率 さ		*			
	協調性のなさ		*			
	神経質さ					*

安全行動調査結果プロフィール（例）

【コメント】 64パターン

比較的スタミナがあるように見受けられますが、やや神経質な面がうかがえます。また、感情が不安定になると、ミスやエラーが誘発されることもあります。性格的には、我慢強く、あまりムキになることもなく、決めたことは最後までやり通すようです。また、早合点等をせず落ち着きがあり、付き合いも多く社会性に富んでおられます。今のところミスは多発していませんが、油断は禁物です。疲れを感じたら、眠け防止のために首や目玉を動かすなど、軽い体操をされるとよいでしょう。共同生活や集団作業では、チームワークを円満に図ることが大切です。自分自身で安全運動を図るだけでなく、他人に積極的に働きかけるよう心がけてください。

STEP2 目標設定を行う

○各傾向ごとに解説が添付されている→目標設定の参考に

(例) 勘違い(習慣行動エラー)に対して

「人違いをしたり」、「よそ見をして失敗する」といったエラーのことです。注意力が低下したときに起きる傾向があります。よく知っている環境や慣れた仕事で、あるいは心配事があるときにしやすいエラーです。このようなエラーの防止には、例えば、指差呼称を行い、確認・点検を怠らないようにすることが役に立ちます。

STEP2 提出アンケート

■問1. この安全行動調査結果プロフィールを見て全くそのとおりを100点だとすると、ご自身で何点だと思いますか？

_____点

■問2. 調査結果プロフィールより『私の長所【より伸ばしていくもの】』を目標設定してください。次にその目標に至るプロセスを記入してください。

またその理由を教えてください。

私の長所

目標に至ったプロセス(理由でも可)

■問3. 調査結果プロフィールより『私が気をつけないといけないこと』を目標設定してください。次にその目標に至るプロセスを記入してください。

またその理由を教えてください。

私が気をつけないといけないこと

目標に至ったプロセス(理由でも可)

STEP2 目標設定を記入

<p>2012年度 私の安全目標</p> <p> 私の長所【より伸ばしていくもの】</p> <p><input type="text"/></p> <p> 私が気をつけないといけないこと</p> <p><input type="text"/></p>	<p></p> <p>医療法人 すこやか 高田中央病院の理念</p> <p>私たちは地域の皆様が健康で明るい生活ができるよう安心して良質な医療を提供します 信頼と優しさを いつでも どこでも 誰にでも</p>
---	---

○氏名章の中 ロッカー扉に

- 安全行動調査 問い合わせ先
- 中央労働災害防止協会 技術支援部 マネジメントシステム推進センター
- ホームページ:<http://www.jisha.or.jp/oshms/survey.html>

○STEP1 安全行動調査の施行

○STEP2 安全行動調査結果をふまえ
各自の目標設定

○STEP3 現場で活用する
「現場ごとのフィードバック」

STEP3 結果の活用

人は自分のことを自分が一番よく知っていると思いがちであるが、意外と知らない面もある。

プロフィールから、対象者が自分のエラー傾向、パーソナリティー傾向を知ると、「自分で考えていた自分の姿」と「客観的に示された自分の姿」との違いを認識することができるので、ヒューマンエラーによる不安全行動の防止に役立つ。

STEP3 結果の活用

当初は、結果表をそのまま利用し、医療安全活動につなげようとした。しかし、以下の2点から個人で目標設定する際に記入したアンケートを基礎資料とすることにした。

- ・個人で医療安全について考える思考とプロセスが重要
- ・個人データのスコアのみに焦点が当たること

STEP3 活用に際しての留意事項

○結果は、いま・ここでの状況を反映する

この調査により判明したパーソナリティー傾向は、対象者の調査時点の特性が反映されていることに加え、本人の職場における経験や環境等も影響する。

そのため、調査結果は時間と環境で変化する。

○結果がすべてではない

この調査結果は、心理的な面から統計的手法及び専門家から見たデータを活用して、人の性格の特定の部分に着目して得られたものである。よって、対象者本人の性格がすべて示されているわけではない。

考察

○小規模病院における優位性？

→トップダウン ベンチマークが簡単

○ラベリングの危険性

○小さな事からコツコツと修正しながら

→思ったよりの的中している 80点以上

自分自身の安全目標を初めて明文化

結語

中小病院と大規模医療機関は、医療内容も対象患者も大きく異なる

中小病院は、大学病院レベルで運用されている医療安全システムのミニチュア版を構築するのではなく、病院の特性をふまえ、等身大のシンプルかつフレキシブルな医療安全システムをつくりあげてゆく